

ベトナム国内の交通革新とスマートシステム導入

2025 年 2 月 21 日 作成

カテゴリ ベトナム市場調査 デジタル経済・IT

ベトナム国内の交通革新とスマートシステム導入

ベトナム国内の交通分野は、人工知能（AI）技術の発展により、大きな変革の時期を迎えている。特に、自動運転車の開発が進み、都市の交通管理がより効率的かつ持続可能になると予測されている。テスラをはじめとするベトナム国内外の企業は、自動運転技術を搭載した電気自動車の開発を推進しており、2026～2027 年には公道での運用が見込まれている。これにより、交通事故の減少や移動の利便性向上が期待されている。

さらに、空飛ぶ車の開発も進んでおり、ベトナム国内外の企業が競争を繰り広げている。スロバキアの KleinVision 社が開発した「AirCar」は、商業化に向けた実験を進めており、将来的には交通渋滞の解消に寄与すると期待されている。モルガン・スタンレーは、空飛ぶ車市場が 2040 年には 1 兆ドル規模、2050 年には 9 兆ドル規模に成長すると予測している。

一方、ベトナム政府は、超高速輸送システム「ハイパーループ」の開発にも関心を寄せている。この技術は、磁気浮上による低抵抗移動を利用し、時速 1,200km 以上の高速移動を可能にする。欧州の企業を中心に開発が進められており、2030 年までに旅客輸送の実用化が計画されている。

AI 技術は、交通管理の効率化にも大きく貢献している。マレーシアのブトラジャヤ市では、AI を活用した交通監視システムが導入され、リアルタイムで渋滞を検知し、最適な迂回ルートを提供する仕組みが整備されている。ベトナム国内でも、ハノイやホーチミン市を中心にスマート交通システムの導入が進められており、ビッグデータや AI を活用した交通制御が検討されている。

ベトナム政府は、交通の未来を見据え、スマート交通システムの基準や法制度の整備を進める必要があると認識している。専門家は、センサーや監視カメラを活用したデータ収集が、都市の交通管理や排出ガス削減に貢献すると指摘している。これにより、ベトナム国内の交通はより環境に優しく、安全で効率的なものへと進化すると期待されている。

以上